

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Ch33013B ⑥	こども家庭福祉	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>望ましい保育者となるために、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について学びを深めていく。併せて、子どもの人権に目を向けながら子ども家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>レポート：1. 児童虐待の現状について理解する。  2. 児童虐待の対応について理解する。  3. 被虐待児を保護するために求められる保育者の対応について理解する。  4. 児童副六法について理解する。  5. 児童福祉法がつくられた経緯について理解する。  6. 児童福祉法における保育士の役割について理解する。</p> <p>科目試験：レポートでまとめた内容の総括として、保育士として児童家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性について習得する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>子ども家庭福祉の専門職をめざすための基本的あるいは専門的な知識や技術等を学ぶ。子ども家庭福祉に関する歴史や制度、法律、各種サービス、家庭支援や地域支援の在り方について体系的に学ぶ。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷</li> <li>2. 現代社会と子ども家庭福祉：少子高齢化、家族形態の変化、相対的貧困、食文化</li> <li>3. 子どもの権利－子ども観、人権擁護の歴史の変遷、児童の権利に関する条約</li> <li>4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題</li> <li>5. 子ども家庭福祉の制度と法体系および実施体系</li> <li>6. 児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職・実施者</li> <li>7. 少子化と地域子育て支援</li> <li>8. 母子保健と子どもの健全育成</li> <li>9. 多様な保育ニーズへの対応</li> <li>10. 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止</li> <li>11. 社会的養護</li> <li>12. 障害のある子どもへの対応</li> <li>13. 少年非行等への対応</li> <li>14. 貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応</li> <li>15. 子ども家庭福祉の動向と展望</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
『こども家庭福祉』（配本テキスト） 『保育所保育指針解説』（最新版）（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）（フレーベル館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
『子ども家庭福祉入門』 芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治・山川宏和編著（ミネルヴァ書房）2020年 （ISBN：9784623088546） 『国民の福祉と介護の動向 2022/2023』（第69巻第10号）厚生労働統計協会編（厚生労働統計協会）			
<b>学生に対する評価</b>			
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる） 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
So31011B ⑥	社会福祉論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、援助方法などについて学ぶ。</p> <p>〈学習成果〉</p> <p>レポート：1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。  2. 社会福祉の中で、特に子どもの人権と家庭支援について理解する。  3. 社会福祉の法律・制度・実施体系とその利用者支援等について理解する。  4. 相談援助の理論・方法と技術等について理解する。  5. 社会福祉における動向や課題について知る。</p> <p>科目試験：レポート学習した内容の総括として、保育士として社会福祉の領域に関する基本的な知識・技術・価値観について習得した結果をまとめる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史の変遷、その運営の制度や専門性、相談援助について理解を深める。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<p>大西清文：福祉施設15年、神谷明宏：福祉施設17年、室谷雅美：高等学校12年</p>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の理念…社会福祉とは、基本的人権・生存権、福祉政策</li> <li>2. 社会福祉の歴史の変遷…欧米・日本の歴史</li> <li>3. 子ども家庭支援と社会福祉…少子化対策と子育て支援</li> <li>4. 社会福祉の制度と法体系…社会福祉六法と社会福祉法</li> <li>5. 社会福祉行財政と実施機関…国・地方等の機関と福祉財政</li> <li>6. 社会福祉施設と社会福祉の専門職…社会福祉法に基づく施設、専門職と倫理</li> <li>7. 社会保障…憲法25条と生活保護、各福祉手当等</li> <li>8. 相談援助の理論…発展過程とバイステックの7原則</li> <li>9. 相談援助の意義と機能…相談援助と社会資源、援助者の役割</li> <li>10. 相談援助の対象と過程…社会福祉の諸問題とその援助展開</li> <li>11. 相談援助の方法と技術…ソーシャルワークアプローチ他、面接と記録の技術</li> <li>12. 利用者保護の仕組み…個人情報保護・第三者評価・成年後見制度・子どもの権利擁護</li> <li>13. これかの福祉動向の課題…少子高齢化と子育て支援</li> <li>14. 共生社会・在宅福祉…地域共生社会の実現と地域福祉の推進</li> <li>15. 諸外国の動向…世界の福祉政策から学ぶ</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「社会福祉論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーバル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーバル館)</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>新・基本保育シリーズ 社会福祉/松原康雄・坪 洋一・金子 充編集/中央法規/2019年(ISBN:978-4-8058-5784-7)</p> <p>インターネットでの検索も役立ちます。その際は、その内容の典拠や根拠の確認も行い、情報の正しさを精査しましょう。</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Ch33212C ⑥	こども家庭支援論	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>子ども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。</p>			
<b>〈学習成果〉</b>			
<p>レポート：子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。地域における子育て家庭支援の必要性について理解する。</p> <p>科目試験：レポート学習した内容の総括として、地域の子育て支援における保育所・保育士の役割や保育士の専門性を活かした支援について説明できる。要保護児童について、またその家族に対する支援について説明できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題について理解を深める。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭への支援方策として関係機関の連携等、各ニーズの特性を捉えながら学習を進める。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族・家庭・世帯とは</li> <li>2. 家族と家庭の形態と機能</li> <li>3. ライフステージ</li> <li>4. 社会環境の変化と現代の家庭</li> <li>5. 現代の家庭と子育てをめぐる問題</li> <li>6. 要保護家庭の問題</li> <li>7. 子育て家庭を支援する法・制度</li> <li>8. 子育て家庭を支援する社会資源</li> <li>9. 新たな子育て支援制度</li> <li>10. 子育て家庭支援の体系</li> <li>11. 保育者による家庭支援の原理</li> <li>12. 保育所における子育て家庭支援</li> <li>13. 地域における子育て家庭支援</li> <li>14. 特別なニーズをもつ子育て家庭支援</li> <li>15. 諸外国の子育て家庭支援</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「こども家庭支援論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーバル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーバル館)</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>『子ども家庭支援・子育て支援入門』才村 純・芝野松次郎・新川泰弘(ミネルヴァ書房)2021年 (ISBN:9784623092222)</p> <p>『子ども家庭支援論(保育士を育てる⑨)』和田上貴昭・高玉和子(一藝社)2020年 (ISBN:9784863592087)</p> <p>『実践子ども家庭支援論』松本園子・永田陽子・福川須美・森和子著(ななみ書房)2019年 (ISBN:9784903355788)</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Ch33360B ⑥	こどもの発達と家庭支援	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解する。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>レポート：1. エリクソンのライフサイクル理論について理解する。  2. エリクソンのライフサイクル理論の各時期について理解する。  3. 各段階における発達上の特性・課題について理解する。  4. 子育て家庭を取り巻く現状について理解する。  5. 地域・家庭の変化について理解する。  6. 家族の形態の変化について理解する。</p>			
<p>科目試験：レポート学習した内容の総括として、ハヴィガーストの発達課題について修得する。発達課題や生涯発達についても理解する。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について習得する。乳幼児期から老年期における発達課題について理解する。保育所が行う子育て支援の役割を理解する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>生涯発達に関する知識を深め、乳幼児期から老年期に至る発達段階と発達課題等について学ぶ。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、子育て家庭に関する現状と課題について習得する。家庭教育支援上の課題についても学ぶ。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児期の発達</li> <li>2. 幼児期の発達</li> <li>3. 学童期の発達</li> <li>4. 青年期の発達</li> <li>5. 成人期・中年期の発達</li> <li>6. 老年期の発達</li> <li>7. 家族・家庭の意義と機能</li> <li>8. 親子関係・家族関係の理解</li> <li>9. 子育ての経験と親としての育ち</li> <li>10. 子育てを取り巻く社会的状況</li> <li>11. ライフコースと仕事・子育て</li> <li>12. 多様な家庭とその理解</li> <li>13. 特別な配慮を要する家庭</li> <li>14. 子どもの生活・生育環境とその影響</li> <li>15. 子どもの心の健康に関わる問題</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
『こどもの発達と家庭支援』（配本テキスト） 『保育所保育指針解説』（最新版）（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（最新版）（フレーベル館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
『子ども家庭支援の心理学入門』大倉得史・新川泰弘編著（ミネルヴァ書房）2020（ISBN：9784623089437）			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			
<p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
He31510D ⑤	健 康 論	1 単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>「健康」について理解するとともに、健康の育成における保育者の役割や朝食の重要性、乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、食生活の問題点、安全な生活、運動発達などが健康育成に大きく関わっていることについて理論的学習を身に付ける。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>レポート：乳幼児期における健康の意義に対する考え方を理解するとともに、健康の育成における保育者の役割について理解し、最も大切と思う内容について述べることができる。 また、食は生きる力の源であり、特に朝食については健康成立に大きく関わっていることや「朝食の役割」について理解し述べるができる。</p> <p>科目試験：乳幼児期における健康は、日常における生活環境が大きく関係して成立していることを理解するとともに、健康成立にかかわる様々な問題について取り組むことができるようにする。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と体の基礎をつくる重要な時期である。乳幼児期の運動発達における大人との相違について理解（可能であれば映像資料や事例を活用）するとともに乳幼児期における健康成立のための基本的な生活習慣の意義を理解する。また、乳幼児期における健康成立に欠かせない食育について理解する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>「健康」についての理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児期の心と体の発達と健康課題</li> <li>乳幼児期の健康を考える</li> </ul> </li> <li>領域「健康」の「ねらい及び内容」 <ul style="list-style-type: none"> <li>「ねらい」の理解</li> <li>「内容」の理解</li> </ul> </li> <li>健康の育成における保育者の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>健康の育成における保育者役割りの留意点</li> </ul> </li> <li>乳幼児の発育発達 <ul style="list-style-type: none"> <li>形態的発育発達と機能的発達の特徴</li> <li>運動機能の発達と獲得</li> </ul> </li> <li>乳幼児期における運動の意義 <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活における運動の経験</li> <li>運動遊びと保育者の関わり</li> </ul> </li> <li>乳幼児期の基本的な生活習慣と健康 <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児期の生活習慣</li> <li>基本的な生活習慣と運動機能の発達</li> </ul> </li> <li>乳幼児期の食育 <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の子どもの食生活の問題点</li> <li>朝食の役割</li> </ul> </li> <li>乳幼児における健康・安全の確保 <ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理と安全教育</li> <li>健康安全と地域連携</li> <li>虐待の防止</li> </ul> </li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「健康論」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）  「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態		
En31520C ③	環 境 論	1 単位	レポート・科目試験		
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもを取り巻く環境、保育環境、領域「環境」の内容とそれぞれの違いについて理解している。</li> <li>2. 乳幼児期の子どもの発達と環境との関係がわかる。</li> <li>3. 環境を通して行う保育の意味と、「保育はなぜ環境を通して行うのか」が説明できる。</li> <li>4. 保育環境が満たすべき条件と、「計画的、意図的に環境を構成する」ことの大切さがわかる。</li> <li>5. 子どもの年齢と発達に即した、ねらいが達成される環境をデザインすることができる。</li> </ol>					
<b>≪学習成果≫</b>					
<p>レポート：環境を通じた保育の意味を理解し、構成する環境が満たすべき条件、保育者のかかわりについて説明する。</p> <p>科目試験：保育環境と領域「環境」、領域「環境」のねらい、子どもにとって良い環境とは、人的環境、物的環境、自然環境、社会文化的な環境とは、保育情事の意義などについて説明する。</p>					
<b>授業の概要</b>					
<p>子どもを取り巻く環境は様々であり、その中で子どもは生活をしている。保育環境の理解に基づき具体的な環境例を通して環境と子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味を学習し、幼児の主體的な活動を促すとともに発達に沿ったねらいが達成できるような意図的な保育環境をデザインする。</p>					
<b>実務経験の概要</b>					
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業					
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもにとっての環境               <ol style="list-style-type: none"> <li>①環境の定義と子どもにとっての環境</li> <li>②環境を通して行う保育の意味</li> </ol> </li> <li>2. 保育環境と領域「環境」は何が違うのか               <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育環境と領域「環境」の違い</li> <li>②領域「環境」の指導計画</li> </ol> </li> <li>3. 保育環境にはどのようなものがあるか               <ol style="list-style-type: none"> <li>①人的環境・物的環境、自然環境、社会・文化環境</li> <li>②文字・標識・数量・図形</li> </ol> </li> <li>4. 幼児と身近な環境との出会い               <ol style="list-style-type: none"> <li>①人的環境との関わり</li> <li>②遊具、素材、自然環境との関わり</li> </ol> </li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 子どもにとっての行事               <ol style="list-style-type: none"> <li>①行事の役割と意義</li> <li>②季節の行事と地域の行事</li> </ol> </li> <li>6. 地域・施設を理解しよう               <ol style="list-style-type: none"> <li>①住んでいる街の探検</li> <li>②施設訪問</li> </ol> </li> <li>7. 環境を大切にしよう               <ol style="list-style-type: none"> <li>①ひと、もの、命を大切に</li> <li>②幼児ができる環境保護</li> </ol> </li> <li>8. 保育者としての専門性の向上               <ol style="list-style-type: none"> <li>①今求められる専門性</li> <li>② Society5.0 とこれから求められる専門性</li> </ol> </li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもにとっての環境               <ol style="list-style-type: none"> <li>①環境の定義と子どもにとっての環境</li> <li>②環境を通して行う保育の意味</li> </ol> </li> <li>2. 保育環境と領域「環境」は何が違うのか               <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育環境と領域「環境」の違い</li> <li>②領域「環境」の指導計画</li> </ol> </li> <li>3. 保育環境にはどのようなものがあるか               <ol style="list-style-type: none"> <li>①人的環境・物的環境、自然環境、社会・文化環境</li> <li>②文字・標識・数量・図形</li> </ol> </li> <li>4. 幼児と身近な環境との出会い               <ol style="list-style-type: none"> <li>①人的環境との関わり</li> <li>②遊具、素材、自然環境との関わり</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 子どもにとっての行事               <ol style="list-style-type: none"> <li>①行事の役割と意義</li> <li>②季節の行事と地域の行事</li> </ol> </li> <li>6. 地域・施設を理解しよう               <ol style="list-style-type: none"> <li>①住んでいる街の探検</li> <li>②施設訪問</li> </ol> </li> <li>7. 環境を大切にしよう               <ol style="list-style-type: none"> <li>①ひと、もの、命を大切に</li> <li>②幼児ができる環境保護</li> </ol> </li> <li>8. 保育者としての専門性の向上               <ol style="list-style-type: none"> <li>①今求められる専門性</li> <li>② Society5.0 とこれから求められる専門性</li> </ol> </li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもにとっての環境               <ol style="list-style-type: none"> <li>①環境の定義と子どもにとっての環境</li> <li>②環境を通して行う保育の意味</li> </ol> </li> <li>2. 保育環境と領域「環境」は何が違うのか               <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育環境と領域「環境」の違い</li> <li>②領域「環境」の指導計画</li> </ol> </li> <li>3. 保育環境にはどのようなものがあるか               <ol style="list-style-type: none"> <li>①人的環境・物的環境、自然環境、社会・文化環境</li> <li>②文字・標識・数量・図形</li> </ol> </li> <li>4. 幼児と身近な環境との出会い               <ol style="list-style-type: none"> <li>①人的環境との関わり</li> <li>②遊具、素材、自然環境との関わり</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 子どもにとっての行事               <ol style="list-style-type: none"> <li>①行事の役割と意義</li> <li>②季節の行事と地域の行事</li> </ol> </li> <li>6. 地域・施設を理解しよう               <ol style="list-style-type: none"> <li>①住んでいる街の探検</li> <li>②施設訪問</li> </ol> </li> <li>7. 環境を大切にしよう               <ol style="list-style-type: none"> <li>①ひと、もの、命を大切に</li> <li>②幼児ができる環境保護</li> </ol> </li> <li>8. 保育者としての専門性の向上               <ol style="list-style-type: none"> <li>①今求められる専門性</li> <li>② Society5.0 とこれから求められる専門性</li> </ol> </li> </ol>				
<b>テキスト</b>					
<p>「環境論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>					
<b>参考書・参考資料等</b>					
<p>「保育内容『環境』第3版」秋田喜代美編 (株)みらい (ISBN: 9784860154479)</p> <p>「幼稚園・保育所指導計画作成のためのねらいと内容集」田中敏明 (北大路書房) (ISBN: 9784762828546)</p>					
<b>学生に対する評価</b>					
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>					

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Hu31530B ③	人 間 関 係 論	1 単 位	レポ ー ト ・ 科 目 試 験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育・保育で保障すべき教育内容に関する知識を身につける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>レポート：領域「人間関係」の基礎理論を理解し、保育者の役割を通して論じることができる。</p> <p>科目試験：こどもを取り巻く環境の変化について理解し、こどもが人間関係をつむぎながら成長する過程を理解する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「人間関係」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいと内容      ・領域の相補性（保育活動の総合性とは）</li> </ul> </li> <li>2. 人間関係と取り巻く社会環境① <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化      ・家族の変化</li> </ul> </li> <li>3. 人間関係と取り巻く社会環境② <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な環境の変容      ・メディアの変化</li> </ul> </li> <li>4. 人間関係をつむぐこどもの発達 <ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識と道徳性の芽生え（育ち）      ・ルール、決まり事の意味と意義</li> </ul> </li> <li>5. 人間関係をつむぐこどもの発達 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立心、協同性の芽生え（育ち）      ・自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち）</li> </ul> </li> <li>6. 人間関係とこどもの遊び <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びの中で育つ乳児の人間関係      ・遊びの中で育つ幼児の人間関係</li> </ul> </li> <li>7. 人間関係とこどもの生活 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭とのかかわりとこどもの発達      ・地域とのかかわりとこどもの発達</li> </ul> </li> <li>8. 今日の人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども）</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「人間関係論」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）  「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>「コンパス保育原理」田中敏明編著 建帛社 2019年（ISBN：9784767951041）  「領域人間関係事例で学ぶ保育内容」岩立京子・無藤隆 萌文書林 2018年（ISBN：9784893472571）  「人間関係 新・保育実践を支える」成田朋子 福村出版 2018年（ISBN：9784571116131）  その他 保育及び人間関係の関連図書</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。  （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。  （レポート評価はルーブリック評価を用いる）</p>			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Mu31570A ⑤	音楽表現論	1単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>感性と表現に関する領域「表現」を通して、こどもが様々な感覚を駆使して表現することの「表現」を理解する。こどもの発達と音楽表現の関係、こどもの音楽的感性や創造性をゆたかにする様々な音楽表現遊びやその環境構成などを理解する。また、音楽表現指導に関する専門的知識を身につけ、保育の具体的な指導や援助の計画が立てられるようになる。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート及び科目試験：感性と表現に関する領域「表現」を理解し、音楽表現指導に関する専門的知識・具体的な指導の方法を身に付ける。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>領域「表現」における音楽表現に視点を置き、こどもが遊びや生活の中で、こどもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての豊かな感性を養う。また、こどもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもが表現する力や想像力を育むための知識と具体的な指導法を身に付ける。さらに家庭との連携のあり方とその具体的な方法、小学校教育への学びの連続性を理解する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感性と表現の領域「表現」の理解 感性と表現の領域「表現」の基礎知識</li> <li>2. こどもを取り巻く音に対する感性と表現 自然の音や生活の音への気づきと感性を育む保育</li> <li>3. 日本のこどもの歌の理解 童謡・わらべうた・あそびうた</li> <li>4. 感性と表現の領域「表現」と他の領域との関連 領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」と関連した音楽表現</li> <li>5. こどもの音楽表現を育む保育の実践 幼児用楽器や手作り楽器を用いた音楽表現活動</li> <li>6. 音楽を用いたこどもの表現活動の指導1 うたう活動・楽器あそびなど表現活動における指導案の作成</li> <li>7. 音楽を用いたこどもの表現活動の指導2 うたう活動・楽器あそびなどの模擬保育の実際</li> <li>8. 保育の可視化による家庭との連携、小学校教育への連続性 ポートフォリオなどを用いた保育の可視化、ICTの活用</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「音楽表現論」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現 ～のびのびと心と身体を育む～ 柳澤邦子著 フレーベル館 (ISBN: 9784577813706)</p> <p>育ちと学びをつなぐ「幼保小連携教育」の挑戦 実践接続期カリキュラム 木村吉彦監修 ぎょうせい (ISBN: 9784324100844)</p> <p>こどものうた「簡易伴奏曲付」 田中常雄監修 平島美保、木村鈴代、小杉裕子編著(圭文社)(ISBN: 9784874460764)</p> <p>保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集 津布楽杏里、桑原章寧著(DOREMI)(ISBN: 9784285140439)</p> <p>手あそび百科 植田光子編著(ひかりのくに株式会社)(ISBN: 9784564603839)</p> <p>表現原論 大場牧夫著 萌文書院 (ISBN: 9784893470485)</p> <p>保育内容「表現」論 名須川知子、高橋敏之著 ミネルヴァ書房 (ISBN: 9784623047178)</p>			

## 学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Fo31550A ⑤	造形表現論	1単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。</p> <p>〈学習成果〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。</li> <li>2. 乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。</li> <li>3. 乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。</li> </ol> <p>レポート：乳幼児における造形教育の指導・援助者として必要となる基礎的知識及び技能についてテーマ毎に課題を設定し、形や色や質感等について理解するとともに、保育の教材となる材料や用具の取り扱いについて学習する。</p> <p>科目試験：保育の内容を踏まえた造形教育における基礎的知識と、造形活動の際に取り扱う保育教材や用具の使用方法について確認する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現のねらい</li> <li>2. こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの特徴と理解</li> <li>3. こどもの発達段階の基本的な考え方に基づく、えがく、つくる、造形あそびの指導、援助、評価</li> <li>4. えがく活動における形態・色彩の理論、絵画技法、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価</li> <li>5. つくる活動における技法と活用、素材（廃材）、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価</li> <li>6. 造形あそびにおける各種表現技法、製作、材料・用具を踏まえた指導援助、評価</li> <li>7. 実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用</li> <li>8. 美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の意義と課題と展望、全体のまとめ</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「造形表現論」（配本テキスト）  「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）  「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>「子どもの絵は何を語るか」 東山明・東山直美共著（日本放送出版協会）（ISBN：9784140018637）</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  （レポート評価はルーブリック評価を用いて行う）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （科目試験評価はルーブリック評価を用いて行う）</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Ch33380D ⑤	こどもと造形	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p>			
<b>〈学習成果〉</b>			
<p>スクーリング：1. 乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。</p> <p>2. えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。</p> <p>3. 教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点について</li> <li>2. 幼児造形（表現）の特徴・領域・道筋について</li> <li>3. えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際）</li> <li>4. つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際）</li> <li>5. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際）</li> <li>6. 作品の研究及び発表</li> <li>7. 幼児造形教育の課題について</li> <li>8. まとめ</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p><b>【事前学習】</b> 時間の目安：1時間程度  テキスト「造形表現論」と「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の表現領域をよく読み、幼児造形の意味、材料や用具などの使用法を理解する。</p> <p><b>【事後学習】</b> 時間の目安：1時間程度  テキストやプリントを再度確認、整理しまとめる。また、授業で行った製作について、確認したり広がりや研究したりして理解を深める。</p>			
<b>テキスト</b>			
「造形表現論」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
市販の造形に関する書籍等			
<b>学生に対する評価</b>			
科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や課題、単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Ex31560C ⑤	表現とこどもの運動	1 単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>こども達が自分の思いや考えを豊かな表現を通して他者に伝えることができるためには、多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解する。その中で年齢や環境に応じた動きや運動遊びと身体表現を通してこども達がどう表現し遊びを工夫し、仲間と話し合うかなどよりよく関わっていくことができるかを発達段階に沿って展開させることを学ぶ。また、こども達が楽しく表現運動することができる安全の確保についても認識を深める。</p>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>レポート：表現運動における「表現と感性の関連」及び、表現運動に関係する「運動と人格的な発達」について理解説明ができる。また、保育の実践における「人的環境を整える援助の工夫」について大切と思う内容について理解し、実践事例をあげて自分の考えを述べることができる。</p> <p>科目試験：表現活動は、こどもを取り巻く生活環境が大きく関係し、遊びの中で豊かな感性に深く関係していることを理解するとともに、表現遊びや表現運動がそれぞれ相互に関わり成り立っていることを理解する。また、こども同士での運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達状況に応じた援助の在り方を理解し各種の問題に取り組むことができるようにする。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安心安全に楽しく表現遊びが展開できる援助の在り方について知識及び実践力を深める。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表現の理解と関連性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現」の理解</li> <li>・「感性」の理解</li> </ul> </li> <li>2. こどもの発達と運動について <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体・形態・機能・こころの発達発達</li> <li>・こどもと運動「運動と人格的な発達」</li> </ul> </li> <li>3. 運動遊びの基本的な動き <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登）</li> <li>・運動表現の要素における調整力と運動技能との関連</li> </ul> </li> <li>4. 身体コントロール能力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調整力中心の体づくり運動</li> <li>・音・色などの刺激に対応する運動</li> </ul> </li> <li>5. 身体表現運動の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体表現運動のねらい</li> <li>・実施についての留意点</li> </ul> </li> <li>6. 表現とこどもの運動における保育者の役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな動きを体験させる保育者の役割</li> <li>・人的環境としての援助の工夫</li> <li>・表現運動における集団遊びと発達発達の関係</li> </ul> </li> <li>7. 発達段階と表現運動の実践（表現運動遊びの実践） <ol style="list-style-type: none"> <li>①年齢別発達における表現遊び（表現リズム運動、ごっこ遊び、おはじき等）</li> <li>②手遊びリズム表現（糸まき、アルプス一万尺、げんこつ山の狸さん、むすんでひらいて、アイアイ等）</li> </ol> </li> <li>8. 表現運動（運動遊び）における安全指導 <ol style="list-style-type: none"> <li>①安全管理について（安全の考え方、物的管理、人的管理、用具管理等）</li> </ol> </li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「表現とこどもの運動」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			

## 参考書・参考資料等

特になし

## 学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いて行う)

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態																
Ch33390B ⑤	こどもと体育	1単位	スクーリング																
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>																			
<p>運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。</p>																			
<b>≪学習成果≫</b>																			
<p>スクーリング：1. こどもが主体的に遊びに取り組める援助方法を習得する。  2. 演習で取り扱う運動遊びと成長発達の関係を理解する。  3. 運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。  4. 演習で取り扱う運動遊びを習得する。  5. 運動遊びを楽しく、安全に実施する環境づくりを学ぶ。  6. 運動遊びで培われる体と心、社会性を理解する。</p>																			
<b>授業の概要</b>																			
<p>発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。</p>																			
<b>実務経験の概要</b>																			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業																			
<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション（講義）</td> <td>①自然での遊び（水遊び、雪遊び等） ②戸外、森などでの遊び</td> </tr> <tr> <td>2. 固定遊具の遊び</td> <td>①すべり台、ジャングルジム ②ぶらんこ、シーソー</td> </tr> <tr> <td>3. 遊具を使った遊びⅠ</td> <td>①小さいボール、柔らかいボール ②大きいボール、様々なボール</td> </tr> <tr> <td>4. 遊具を使った遊びⅡ（身近な遊具）</td> <td>①フープ、輪、ロープ ②新聞紙、タオルなど</td> </tr> <tr> <td>5. 大型遊具を使った遊び</td> <td>①マット、平均台、跳び箱運動 ②複数の遊具の組み合わせによる運動</td> </tr> <tr> <td>6. サーキット遊び</td> <td>①小型遊具を組み合わせたサーキット遊び ②大型遊具を組み合わせたサーキット遊び</td> </tr> <tr> <td>7. 身体の実現による伝承遊びⅠ（遊具を使わない）</td> <td>①鬼遊び、わらべ歌など（小身体活動） ②ケンケンパー、馬跳びなど（大身体活動）</td> </tr> <tr> <td>8. 身体の実現による伝承遊びⅡ（遊具を使った）</td> <td>①おはじき、独楽遊び、お手玉遊び、けん玉遊び等</td> </tr> </table>				1. オリエンテーション（講義）	①自然での遊び（水遊び、雪遊び等） ②戸外、森などでの遊び	2. 固定遊具の遊び	①すべり台、ジャングルジム ②ぶらんこ、シーソー	3. 遊具を使った遊びⅠ	①小さいボール、柔らかいボール ②大きいボール、様々なボール	4. 遊具を使った遊びⅡ（身近な遊具）	①フープ、輪、ロープ ②新聞紙、タオルなど	5. 大型遊具を使った遊び	①マット、平均台、跳び箱運動 ②複数の遊具の組み合わせによる運動	6. サーキット遊び	①小型遊具を組み合わせたサーキット遊び ②大型遊具を組み合わせたサーキット遊び	7. 身体の実現による伝承遊びⅠ（遊具を使わない）	①鬼遊び、わらべ歌など（小身体活動） ②ケンケンパー、馬跳びなど（大身体活動）	8. 身体の実現による伝承遊びⅡ（遊具を使った）	①おはじき、独楽遊び、お手玉遊び、けん玉遊び等
1. オリエンテーション（講義）	①自然での遊び（水遊び、雪遊び等） ②戸外、森などでの遊び																		
2. 固定遊具の遊び	①すべり台、ジャングルジム ②ぶらんこ、シーソー																		
3. 遊具を使った遊びⅠ	①小さいボール、柔らかいボール ②大きいボール、様々なボール																		
4. 遊具を使った遊びⅡ（身近な遊具）	①フープ、輪、ロープ ②新聞紙、タオルなど																		
5. 大型遊具を使った遊び	①マット、平均台、跳び箱運動 ②複数の遊具の組み合わせによる運動																		
6. サーキット遊び	①小型遊具を組み合わせたサーキット遊び ②大型遊具を組み合わせたサーキット遊び																		
7. 身体の実現による伝承遊びⅠ（遊具を使わない）	①鬼遊び、わらべ歌など（小身体活動） ②ケンケンパー、馬跳びなど（大身体活動）																		
8. 身体の実現による伝承遊びⅡ（遊具を使った）	①おはじき、独楽遊び、お手玉遊び、けん玉遊び等																		
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>																			
<p><b>【事前学習】</b> 時間の目安：1時間程度  ・こどもの遊びにおける内容についての理解を深めておく。  ・用具を使った遊びにはどんなものがあるのか理解を深めておく。</p> <p><b>【事後学習】</b> 時間の目安：1時間程度  ・いろいろな遊びの内容についての理解と実践を深める。  ・遊びにおける環境の設定と安全に行う環境の設定を行う。</p>																			
<b>テキスト</b>																			
<p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）  「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>																			
<b>参考書・参考資料等</b>																			
特になし																			
<b>学生に対する評価</b>																			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>																			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態		
La31540B ⑤	言葉とこどもの文化	1 単位	レポート・科目試験		
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>					
<p>本授業は、保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財がこどものことばの習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし等の児童文化財を利用しての言葉の理解を目的とする。</p> <p>≪学習成果≫</p> <p>レポート：領域「言葉」を踏まえ、児童文化財とことばの習得について述べるができる。具体的な児童文化財の分析と考察を多角的にすることができる。</p> <p>科目試験：幼児期のことばの特徴について理解し、言語教材としての児童文化財の具体的な利用方法を述べる事が出来る。</p>					
<b>授業の概要</b>					
<p>言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。</p>					
<b>実務経験の概要</b>					
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業					
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>ことばの機能と言葉の発達 <ul style="list-style-type: none"> <li>人間とことば、幼児とことば</li> <li>乳幼児期のことばの発達と保育者の役割</li> </ul> </li> <li>領域〈言葉〉のねらい及び内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所保育指針</li> <li>幼稚園教育要領</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財① <ul style="list-style-type: none"> <li>児童文化財とは</li> <li>絵本</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財② <ul style="list-style-type: none"> <li>紙芝居</li> <li>おはなし</li> </ul> </li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>ことばを育てる児童文化財③ <ul style="list-style-type: none"> <li>ペープサート</li> <li>シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど）</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財④ <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばに対する感覚を養う児童文化財</li> <li>わらべうたあそび、ことばあそび</li> </ul> </li> <li>ことばを育む教材 <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばを育む教材の範囲</li> <li>ことばを育む教材研究</li> </ul> </li> <li>保幼小連携について</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>ことばの機能と言葉の発達 <ul style="list-style-type: none"> <li>人間とことば、幼児とことば</li> <li>乳幼児期のことばの発達と保育者の役割</li> </ul> </li> <li>領域〈言葉〉のねらい及び内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所保育指針</li> <li>幼稚園教育要領</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財① <ul style="list-style-type: none"> <li>児童文化財とは</li> <li>絵本</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財② <ul style="list-style-type: none"> <li>紙芝居</li> <li>おはなし</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ことばを育てる児童文化財③ <ul style="list-style-type: none"> <li>ペープサート</li> <li>シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど）</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財④ <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばに対する感覚を養う児童文化財</li> <li>わらべうたあそび、ことばあそび</li> </ul> </li> <li>ことばを育む教材 <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばを育む教材の範囲</li> <li>ことばを育む教材研究</li> </ul> </li> <li>保幼小連携について</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>ことばの機能と言葉の発達 <ul style="list-style-type: none"> <li>人間とことば、幼児とことば</li> <li>乳幼児期のことばの発達と保育者の役割</li> </ul> </li> <li>領域〈言葉〉のねらい及び内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所保育指針</li> <li>幼稚園教育要領</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財① <ul style="list-style-type: none"> <li>児童文化財とは</li> <li>絵本</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財② <ul style="list-style-type: none"> <li>紙芝居</li> <li>おはなし</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ことばを育てる児童文化財③ <ul style="list-style-type: none"> <li>ペープサート</li> <li>シアター（パネルシアター・エプロンシアターなど）</li> </ul> </li> <li>ことばを育てる児童文化財④ <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばに対する感覚を養う児童文化財</li> <li>わらべうたあそび、ことばあそび</li> </ul> </li> <li>ことばを育む教材 <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばを育む教材の範囲</li> <li>ことばを育む教材研究</li> </ul> </li> <li>保幼小連携について</li> </ol>				
<b>テキスト</b>					
<p>「言葉とこどもの文化」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>					
<b>参考書・参考資料等</b>					
<p>「絵本の事典」中川素子 他編集 朝倉書店（ISBN：9784254680225）</p> <p>「子どもと言葉」新訂 岡田明監修 萌文書林（ISBN：9784893470676）</p> <p>「ことばと表現力を育む児童文化」第2版 川勝泰介 他編著 萌文書林（ISBN：9784893472779）</p> <p>「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」  幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議（座長 無藤隆）</p> <p>「昔ばなし大学ハンドブック」小澤俊夫 2016 読者サポート（ISBN：9784990417161）</p>					
<b>学生に対する評価</b>					
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  （評価はルーブリック評価を用いる）</p>					

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態		
Ch33320C ④	こどもの保健	2単位	レポート・科目試験		
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>					
<p>①子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かす。</p> <p>②子どもを取り巻く多様な環境を理解し、他者との連携を取りながら保育を行うことができる。</p> <p>≪学習成果≫</p> <p>レポート：設題についてポイントを押さえて学習し子どもの保健の意義が理解でき、保育実践に活かせる。</p> <p>科目試験：子どもの保健の意義、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、保育における保健的対応について理解する。</p>					
<b>授業の概要</b>					
<p>保育における保健的対応に必要な知識・技術の修得を目的として、子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体的発達・発育と保健、子どもの心身の健康状態とその把握、子どもの疾病の予防および適切な対応について学習する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について述べることができる。</li> <li>2. 子どもの身体的発育・発達と保健について述べるができる。</li> <li>3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について述べるができる。</li> <li>4. 子どもの疾病の予防および適切な対応について述べるができる。</li> </ol>					
<b>実務経験の概要</b>					
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業					
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの保健活動の意義と目的</li> <li>2. 健康の概念と健康指標</li> <li>3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</li> <li>4. 地域における保健活動と児童虐待防止</li> <li>5. 子どもの身体発育と保健</li> <li>6. 子どもの生理機能の発達と保健</li> <li>7. 子どもの運動機能・精神機能の発達と保健</li> <li>8. 子どもの健康状態の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康状態の観察、発育発達の把握、健康診断</li> </ul> </li> <li>9. 子どもの疾病の特徴① <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの病気の特徴、先天異常、感染症</li> </ul> </li> <li>10. 子どもの疾病の特徴② <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器の病気、循環器の病気、消化器の病気</li> </ul> </li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 子どもの疾病の特徴③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・泌尿器・生殖器の病気、中枢神経系の病気</li> </ul> </li> <li>12. 子どもの疾病の特徴④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝・内分泌の病気、血液・腫瘍の病気、アレルギーの病気、整形外科（骨、筋肉系）の病気</li> </ul> </li> <li>13. 子どもの疾病の予防と適切な対応① <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全法で定める疾患</li> </ul> </li> <li>14. 子どもの疾病の予防と適切な対応② <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防接種、子どもの疾病への国の対応</li> </ul> </li> <li>15. 学習のまとめ（学生自身の振り返り）</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの保健活動の意義と目的</li> <li>2. 健康の概念と健康指標</li> <li>3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</li> <li>4. 地域における保健活動と児童虐待防止</li> <li>5. 子どもの身体発育と保健</li> <li>6. 子どもの生理機能の発達と保健</li> <li>7. 子どもの運動機能・精神機能の発達と保健</li> <li>8. 子どもの健康状態の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康状態の観察、発育発達の把握、健康診断</li> </ul> </li> <li>9. 子どもの疾病の特徴① <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの病気の特徴、先天異常、感染症</li> </ul> </li> <li>10. 子どもの疾病の特徴② <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器の病気、循環器の病気、消化器の病気</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 子どもの疾病の特徴③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・泌尿器・生殖器の病気、中枢神経系の病気</li> </ul> </li> <li>12. 子どもの疾病の特徴④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝・内分泌の病気、血液・腫瘍の病気、アレルギーの病気、整形外科（骨、筋肉系）の病気</li> </ul> </li> <li>13. 子どもの疾病の予防と適切な対応① <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全法で定める疾患</li> </ul> </li> <li>14. 子どもの疾病の予防と適切な対応② <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防接種、子どもの疾病への国の対応</li> </ul> </li> <li>15. 学習のまとめ（学生自身の振り返り）</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの保健活動の意義と目的</li> <li>2. 健康の概念と健康指標</li> <li>3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</li> <li>4. 地域における保健活動と児童虐待防止</li> <li>5. 子どもの身体発育と保健</li> <li>6. 子どもの生理機能の発達と保健</li> <li>7. 子どもの運動機能・精神機能の発達と保健</li> <li>8. 子どもの健康状態の把握 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康状態の観察、発育発達の把握、健康診断</li> </ul> </li> <li>9. 子どもの疾病の特徴① <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの病気の特徴、先天異常、感染症</li> </ul> </li> <li>10. 子どもの疾病の特徴② <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器の病気、循環器の病気、消化器の病気</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 子どもの疾病の特徴③ <ul style="list-style-type: none"> <li>・泌尿器・生殖器の病気、中枢神経系の病気</li> </ul> </li> <li>12. 子どもの疾病の特徴④ <ul style="list-style-type: none"> <li>・代謝・内分泌の病気、血液・腫瘍の病気、アレルギーの病気、整形外科（骨、筋肉系）の病気</li> </ul> </li> <li>13. 子どもの疾病の予防と適切な対応① <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全法で定める疾患</li> </ul> </li> <li>14. 子どもの疾病の予防と適切な対応② <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防接種、子どもの疾病への国の対応</li> </ul> </li> <li>15. 学習のまとめ（学生自身の振り返り）</li> </ol>				
<b>テキスト</b>					
<p>「こどもの保健」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーバル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーバル館）</p>					
<b>参考書・参考資料等</b>					
<p>『新基本保育シリーズ①子どもの保健』 児童育成協会（監修）、松田博雄・金森三枝（編集）、中央法規出版、2019年2月20日（ISBN：978-4-8058-5791-5 C3036）</p> <p>「保育所における感染症対策ガイドライン」（2018年改訂版）子ども家庭庁、（2023（令和5年5月一部改訂）〈2023（令和5年7月一部修正）〉）</p> <p>「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）厚生労働省、2019（平成31）年4月</p>					
<b>学生に対する評価</b>					
<p>学習状況の確認：レポート課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p>					

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態		
Ch33330D ③	こどもの健康と安全	1単位	スクーリング		
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>					
最近のデータや関連するガイドライン等を踏まえて、保育における事故や感染症、危機的な状況から子どもを守るために保育士が知っておくべき基本的な知識と具体的な対応について学習する。					
<b>≪学習成果≫</b>					
スクーリング：演習を通して応用力を高め、保育現場において具体的な対応や援助方法が実践できる。					
<b>授業の概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</li> <li>・保育における健康および安全管理について、具体的に理解する。</li> <li>・子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>・感染症対策について、具体的に理解する。</li> <li>・保育における保健的対応について、具体的に理解する。</li> <li>・健康および安全管理の実施体制について、具体的に理解する。</li> </ul>					
<b>実務経験の概要</b>					
栗岡明美：幼稚園33年、廣田邦生：中学校12年、高等学校30年					
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業					
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの健康と保育の環境</li> <li>②個別対応と集団全体の健康及び安全管理</li> </ol> </li> <li>2. 保育における健康および安全管理               <ol style="list-style-type: none"> <li>①衛生管理</li> <li>②事故防止および安全対策</li> <li>③危機管理</li> <li>④災害への備え</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応               <ol style="list-style-type: none"> <li>①体調不良が発生した場合の対応</li> <li>②緊急を要する状況への対処方法</li> </ol> </li> <li>4. 救命手当および救急蘇生法               <ol style="list-style-type: none"> <li>①救命手当の基本対応</li> <li>②心肺蘇生法</li> <li>③気道異物除去</li> </ol> </li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 感染症の対策               <ol style="list-style-type: none"> <li>①感染症の集団発生の予防</li> <li>②感染症発生時と罹患後の対応</li> <li>③疾病の支援体制</li> </ol> </li> <li>6. 保育における保健的対応               <ol style="list-style-type: none"> <li>①慢性疾患・アレルギー疾患など、個別的な配慮を要する子どもへの対応</li> <li>②障害のある子どもへの対応</li> </ol> </li> <li>7. 健康および安全管理の実施体制               <ol style="list-style-type: none"> <li>①職員間の連携・協働と組織的取り組み</li> <li>②保健活動の計画および評価</li> <li>③地域との連携</li> </ol> </li> <li>8. 学生自らのリフレクション</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの健康と保育の環境</li> <li>②個別対応と集団全体の健康及び安全管理</li> </ol> </li> <li>2. 保育における健康および安全管理               <ol style="list-style-type: none"> <li>①衛生管理</li> <li>②事故防止および安全対策</li> <li>③危機管理</li> <li>④災害への備え</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応               <ol style="list-style-type: none"> <li>①体調不良が発生した場合の対応</li> <li>②緊急を要する状況への対処方法</li> </ol> </li> <li>4. 救命手当および救急蘇生法               <ol style="list-style-type: none"> <li>①救命手当の基本対応</li> <li>②心肺蘇生法</li> <li>③気道異物除去</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 感染症の対策               <ol style="list-style-type: none"> <li>①感染症の集団発生の予防</li> <li>②感染症発生時と罹患後の対応</li> <li>③疾病の支援体制</li> </ol> </li> <li>6. 保育における保健的対応               <ol style="list-style-type: none"> <li>①慢性疾患・アレルギー疾患など、個別的な配慮を要する子どもへの対応</li> <li>②障害のある子どもへの対応</li> </ol> </li> <li>7. 健康および安全管理の実施体制               <ol style="list-style-type: none"> <li>①職員間の連携・協働と組織的取り組み</li> <li>②保健活動の計画および評価</li> <li>③地域との連携</li> </ol> </li> <li>8. 学生自らのリフレクション</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>①子どもの健康と保育の環境</li> <li>②個別対応と集団全体の健康及び安全管理</li> </ol> </li> <li>2. 保育における健康および安全管理               <ol style="list-style-type: none"> <li>①衛生管理</li> <li>②事故防止および安全対策</li> <li>③危機管理</li> <li>④災害への備え</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応               <ol style="list-style-type: none"> <li>①体調不良が発生した場合の対応</li> <li>②緊急を要する状況への対処方法</li> </ol> </li> <li>4. 救命手当および救急蘇生法               <ol style="list-style-type: none"> <li>①救命手当の基本対応</li> <li>②心肺蘇生法</li> <li>③気道異物除去</li> </ol> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 感染症の対策               <ol style="list-style-type: none"> <li>①感染症の集団発生の予防</li> <li>②感染症発生時と罹患後の対応</li> <li>③疾病の支援体制</li> </ol> </li> <li>6. 保育における保健的対応               <ol style="list-style-type: none"> <li>①慢性疾患・アレルギー疾患など、個別的な配慮を要する子どもへの対応</li> <li>②障害のある子どもへの対応</li> </ol> </li> <li>7. 健康および安全管理の実施体制               <ol style="list-style-type: none"> <li>①職員間の連携・協働と組織的取り組み</li> <li>②保健活動の計画および評価</li> <li>③地域との連携</li> </ol> </li> <li>8. 学生自らのリフレクション</li> </ol>				
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>					
<b>【事前学習】</b> 時間の目安：1時間程度					
配本テキスト、保育所保育指針解説第3章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説第3章、参考書を熟読し授業に臨むこと。					
<b>【事後学習】</b> 時間の目安：1時間程度					
授業で作成した演習事後レポートや学習資料について振り返り、評価と学習した内容をどのように発展させていくことが可能か明確にする。					
<b>テキスト</b>					
「こどもの保健」（配本テキスト）					
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）					
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）					
<b>参考書・参考資料等</b>					
「子どもの健康と安全」編集：遠藤郁夫／三宅捷太、学建書院、2021年5月（ISBN：978-4-7624-0890-8）					
参考資料は適宜配布、提示する。					
<b>学生に対する評価</b>					
科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)					

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Ch33340D ⑥	子育て支援	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し身につける。</p> <p>子育て支援の意義や役割について理解し、保育者としての子育て支援の基本姿勢について関心を持ち、子育て支援の意義や役割、基本姿勢など、支援の実際を学ぶ。</p>			
<b>≪学習成果≫</b>			
<p>スクーリング：子育て支援の必要性、また重要視される背景について理解し、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、子育て支援の実施について、事例を通して具体的に理解する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解するとともに、保育士の行う子育て支援の展開を学ぶ。</p> <p>授業の方法は、講義と適宜グループ・ワークを実施し、グループディスカッションを行う。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> スクーリングによる面接授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育士として子育て支援にかかわるために</li> <li>2. 保育の専門性と子育て支援</li> <li>3. 保育所を利用している保護者に対する子育て支援</li> <li>4. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働</li> <li>5. 保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）</li> <li>6. 地域の子育て家庭に対する支援</li> <li>7. 子どもの虐待の予防と対応</li> <li>8. 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p><b>【事前学習】</b> 時間の目安：2時間程度 「保育所保育指針解説」第4章を読んで、理解しておく。子育てにおける保護者の悩みなどを自分なりに考えてみる。</p> <p><b>【事後学習】</b> 時間の目安：2時間程度 授業内容を振り返り、疑問点や課題を整理する。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>『子ども家庭支援・子育て支援入門』才村 純・芝野松次郎・新川泰弘編著（ミネルヴァ書房）2021 (ISBN：9784623092222)</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p>			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Pr33271A ③	保育原理	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>保育原理では、保育・幼児教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追究する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>保育の専門職として、現場保育者にはどのような専門知識や技術が必要とされているのか、どのような想いをもって日々の実践に携わっていくべきなのか、時代背景や子育て家庭の実情を踏まえ、様々な視点からの学びを深める。</p> <p>レポート：・保育所保育に求められてきた保育内容や経緯について学び、論じることができる。 ・保育者の資質向上のための研修制度の目的や内容について学び、その必要性について論じることができる。</p> <p>科目試験：・現場実践における保育計画の必要性について理解する。 ・環境を通じた保育について学び、適切な環境構成の在り方を理解する。 ・わが国の保育改革の歴史について理解を深める。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>保育原理では、子どもをとりまく環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深める。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<p>長谷雄一：高等学校5年、栗岡明美：幼稚園33年、小西浩美：幼稚園39年、菅原亜紀：保育所17年、大西由美子：幼稚園33年</p>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育とは何か(1) 保育の意義と目的</li> <li>2. 保育とは何か(2) ①子どもの最善の利益を考慮した保育 ②保育の社会的意義</li> <li>3. 保育とは何か(3) ①家庭との連携 ②地域との連携</li> <li>4. 保育所保育指針における保育の基本(1) ①保育の目標と方法 ②養護と教育の一体性</li> <li>5. 保育所保育指針における保育の基本(2) ①環境による保育 ②発達に応じた保育</li> <li>6. 保育所保育指針における保育の基本(3) ①保育の計画と評価 ②子どもの健康と安全</li> <li>7. 保育所保育指針における保育の基本(4) ①子育て支援 ②保育士の専門性</li> <li>8. 保育の質を高めるための方法(1) 望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う</li> <li>9. 保育の質を高めるための方法(2) 生活と遊びを通して総合的に行う保育</li> <li>10. 保育の質を高めるための方法(3) 保育における個と集団への配慮</li> <li>11. 保育の思想と歴史の変遷(1) 欧米の保育思想の展開と保育施設の発展</li> <li>12. 保育の思想と歴史の変遷(2) わが国における保育の歴史の変遷</li> <li>13. 保育の制度(1) ①保育所について ②幼稚園について</li> <li>14. 保育の制度(2) ①認定こども園について ②家庭的保育事業について</li> <li>15. 保育の現状と課題 ①日本の保育の現状と課題 ②外国の保育の現状と課題</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「保育原理」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>「イラストたっぷりやさしく読み解く保育所保育指針ハンドブック2017告示版」(学研教育みらい)2017 (ISBN: 9784058008096)</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
So33153A ⑥	社会的養護 I	2単位	レポート・科目試験
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ol>			
<b>〈学習成果〉</b>			
<p>レポート：保育士として、社会的養護に関する歴史や制度などについて説明できる。</p> <p>科目試験：虐待等の社会的問題や社会的養護における現状や課題について理解する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
望ましい保育者になるために必要な社会的養護の基本的な知識、専門性、価値観を身に付ける。			
<b>実務経験の概要</b>			
室谷雅美：高等学校12年、大西清文：福祉施設15年、神谷明宏：福祉施設17年			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護の理念と概念</li> <li>2. 社会的養護の歴史の変遷</li> <li>3. 子どもの人権擁護と社会的養護</li> <li>4. 社会的養護の基本原則</li> <li>5. 社会的養護における保育士等の倫理と責任</li> <li>6. 社会的養護の制度と法体系</li> <li>7. 社会的養護の仕組みと実施体系</li> <li>8. 社会的養護の対象</li> <li>9. 家庭養護と施設養護</li> <li>10. 社会的養護に関わる専門職</li> <li>11. 社会的養護に関する社会的状況</li> <li>12. 施設等の運営管理</li> <li>13. 被措置児童等の虐待防止</li> <li>14. 社会的養護と地域福祉</li> <li>15. 保育現場における社会的養護の現状と課題</li> </ol>			
<b>テキスト</b>			
<p>「社会的養護 I」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>社会的養護入門／芝野松次郎・新川泰弘・山川宏和 編著／ミネルヴァ書房／2021 (ISBN：9784623092239)</p> <p>社会的養護 I (新・基本保育シリーズ6)／相澤 仁・林 浩康 編集／中央法規／2019 (ISBN：978-4805857861)</p> <p>厚生労働省HP・新しい社会的養育ビジョン／  <a href="https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000173888.pdf">https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000173888.pdf</a></p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Ch33222C ③	こどもの食と栄養	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>ヒトが動物としてまた、人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解する。その上で、それを暮らしの中にどのような具体的な形で、こどもたちに伝えていくのかということをしかりと理解し考え、身に付ける。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>レポ ー ト：幼児期における栄養や食生活の重要性を知り、その時期に起こりやすい食行動の問題を挙げると伴に対応方法を考える。</p>			
<p>科 目 試 験：1. こどもにおける水分摂取の重要性を理解する。 2. こどもの体調不良と食事内容を理解する。 3. 生体内における栄養素の機能について理解する。</p>			
<p>スクーリング：1. 健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。 2. こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。 3. 食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解し、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>1. レポート課題・単位認定試験出題課題を中心に、テキスト・参考図書だけではなくより広い視点からこどもの食と栄養について深く理解する。 2. スクーリングを通して学習成果に対する学習の理解を深め、実践力をつける。 3. 普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身につける。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業			
<b>【通信授業】</b>		<b>【面接授業】</b>	
<p>1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解 2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解 3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解 4. こどもの食生活の現状と課題についての理解 5. 食育実践のための基礎知識 6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備 7. 特別な配慮を要するこどもへの対応</p>		<p>1. 栄養の基本概念と栄養素についての理解 2. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解 3. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期 4. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期 5. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期 6. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容 7. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 8. 特別な配慮を要するこどもへの支援</p>	
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<b>【事前学習】</b> 時間の目安：4時間程度			
配本テキスト「こどもの食と栄養」に目を通し、特に第1章、第5章、第6章は、よく読んでスクーリングに参加して下さい。			
<b>【事後学習】</b> 時間の目安：4時間程度			
スクーリングで学習した内容を復習し、保育現場でどのように活用できるか考察して下さい。			
<b>テキスト</b>			
「こどもの食と栄養」(配本テキスト)			
「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)			
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)			

### 参考書・参考資料等

- 「子どもの食と栄養 第2版 ～保育現場で活かせる食の基本」太田百合子、堤ちはる編著（羊土社）  
(ISBN：9784758109116)
- 「子どもの食と栄養演習 第3版」小川雄二編著（医歯薬出版）(ISBN：9784263707937)

### 学生に対する評価

- 【通信授業】学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)
- 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)
- 【面接授業】科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する  
(評価はルーブリック評価を用いる)

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う。

ナンバリング	授 業 科 目 名	単位数	学 習 形 態
Ca33231B ④	障 害 児 保 育	2単位	レポート・科目試験・スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する</li> <li>2. 障害個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する</li> <li>3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する</li> <li>4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する</li> <li>5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する</li> </ol>			
<b>〈学習成果〉</b>			
レポ ー ト：障害の概念を正しく理解し、説明することができる。			
科 目 試 験：障害に関する正しい理解を基に、個別の支援や家庭への支援について考えることができる。			
スクーリング：障害を正しく理解し、保育者としてどのような支援ができるか考えるとともに、他者と共同する力を身に付ける。			
<b>授業の概要</b>			
保育者は、様々な障害の特性と、子どもたちの個性に応じた「可能性」を引き出す関わり方について深く理解することが必要である。それぞれの障害について学んだことを基礎として、個々の発達の遅れや障害の実態に応用力を持って一人ひとりに対応していく力を修得していく。			
<b>実務経験の概要</b>			
<b>授業計画</b> テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業			
<b>【通信授業】</b>		<b>【面接授業】</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害の概念と障害児保育の歴史の変遷</li> <li>2. 障害のある子どもとの統合保育と地域社会への参加</li> <li>3. 差別解消と合理的配慮</li> <li>4. 身体障害児の理解と支援</li> <li>5. 知的、発達障害児の理解と支援</li> <li>6. その他の障害児の理解と支援</li> <li>7. 支援体制の構築 (職員間、家族、地域社会、子ども同士)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合保育の活動</li> <li>2. 障害児保育の実際（身体障害児）</li> <li>3. 障害児保育の実際（知的障害児）</li> <li>4. 障害児保育の実際（発達障害児・その他）</li> <li>5. 障害児保育の健康と安全</li> <li>6. 支援体制づくりのために</li> <li>7. 障害児の支援計画</li> <li>8. 障害児保育の現状と課題</li> </ol>	
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<b>【事前学習】</b> 時間の目安：90～120分程度 これまで障害児に関わった経験を振り返り、整理しておいてください。また、障害をテーマとする小説や映画等を探し、読んで（観て）おいてください。			
<b>【事後学習】</b> 時間の目安：90～120分程度 スクーリングで得た知識や他の受講者のエピソード等、新たに知ったことや学んだことをノート等に整理してください。もっと知りたいこと、学ぶ必要があることを明らかにし、そのスタートを切ってください。			
<b>テキスト</b>			
「障害児保育」（配本テキスト）			
「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）			
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）			
<b>参考書・参考資料等</b>			
特になし			
<b>学生に対する評価</b>			
<b>【通信授業】</b> 学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)			
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)			
<b>【面接授業】</b> 科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用いる)			
※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う			

ナンバリング	授業科目名	単位数	学習形態
Co51010B ⑥	地域ボランティア	1単位	スクーリング
<b>授業のテーマ及び学習成果</b>			
<p>ボランティア活動に関する基礎知識、考え方を身に付けるとともに、活動が持つ社会的役割を理解し、社会貢献について考える。地域、人とのつながり、かかわりを持つ中で、自分自身の人間的な成長の契機とする。地域社会にある課題・問題へ目を向けながら、保育者として主体的に地域へ参与することの意義を学んでいく。</p>			
<b>《学習成果》</b>			
<p>スクーリング：1. ボランティアの本質、活動の意義を理解したうえで、社会、地域への貢献について考えを持ち、説明することができる。</p> <p>2. ボランティア活動の経験から、わき起こった思考・感情に目を向けながら、自分自身の変化について言葉にすることができる。</p> <p>3. 多様なボランティア活動の事例について知り、人や地域社会とのつながり・かかわりについて、自分自身の考えを述べるることができる。</p> <p>4. 受講生とボランティア体験を共有する学び合いから自己省察し、人間的な成長の契機とすることができる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>学びの場は、目の前ばかりでなく、地域社会に広がっている。地域のボランティア活動を通して、得る学びはかけがえのないものである。「ボランティアとは」「ボランティア活動とは何か」といった本質的な部分から授業を進め、“人と人のつながり、かかわること”とは、何であるかについて改めて考えながら、今後の社会生活、職業生活における、人間関係力などについて、学びを深めていく。</p> <p>また、地域コミュニティの一員として、自分の生活する社会において起こる問題や課題に気付くことで、今後の地域社会とのつながり、かかわりについて考える。多様なボランティア活動の事例や受講生のボランティア体験を共有し、その中にある思考、価値、態度などに触れながら自己省察する。</p>			
<b>実務経験の概要</b>			
近藤 章：小学校27年			
<b>授業計画</b> ボランティア活動とスクーリングによる面接授業			
<p>具体的な活動事例の考察を通して、ボランティア活動の歴史的背景、現状、課題、特質、意義などへの理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動の歴史的背景</li> <li>2. ボランティアの基本的特質</li> <li>3. ボランティアの現状と事例 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ハンディを持つ人びと</li> <li>(2) 高齢者</li> <li>(3) こどもたちの未来を考える</li> </ol> </li> <li>4. ボランティアの課題</li> <li>5. 現代社会におけるボランティアの意義について</li> </ol>			
<b>時間外学習の時間の目安と内容</b>			
<p><b>【事前学習】</b> 時間の目安：30時間 ボランティア活動の実施</p> <p><b>【事後学習】</b> 時間の目安：1時間 ボランティア活動の意義・成果の考察</p>			
<b>テキスト</b>			
特になし			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する。 (評価はルーブリック評価を用いる)</p>			